

使徒言行録 19 章 21 節～22 節。このようなことがあった後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、「わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない」と言った。そして、自分に仕えている者の中から、テモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出し、彼自身はしばらくアジア州にとどまっていた。

パウロのエフェソ宣教は大きな成果が上がっていた。その頃、パウロはマケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行きたいと考えていた。エフェソからエルサレムには陸路で行くことができる。エフェソからマケドニア州とアカイア州に行くには、海を渡り、何百kmも逆の北西に行かなければならない。パウロのマケドニア州、アカイア州行きの願いは、異邦人教会からエルサレム教会への支援金を集め、それを持ってエルサレムに行くということであった。

最初に誕生した教会、本山とも言うべきエルサレム教会は、ユダヤ教徒たちから信仰が違くと迫害を受け、生活に窮していた。48 年に行われた最初の会議の使徒会議ではエルサレム教会と異邦人教会との間で、福音理解の一致を見た。この会議で、パウロはガラテヤ書 2 章 10 節で「わたしたちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です」という付帯事項がつけられたと書いている。パウロは、貧しくさせられたエルサレム教会を何としても支援したいという篤い思いを持っていた。ローマ書 15 章 25 節～27 節で「マケドニア州とアカイア州の人々が、エルサレムの聖なる者たちの中の貧しい人々を援助することに喜んで同意したからです。彼らは喜んで同意しましたが、実はそうする義務もあるのです。異邦人はその人たちの霊的なものにあずかったのですから、肉のもので彼らを助ける義務があります」と記し、異邦人教会は霊的なものを受けたエルサレム教会に金品で支援する義務があると書いている。また、コリント（二）8 章 1 節で、隣のマケドニア州の諸教会は極度の貧しさの中にありながら、施す豊かさの喜びに満たされていると書いて、7 節では「あなたがたは信仰、言葉、知識、あらゆる熱心、わたしたちから受ける愛など、すべての点で豊かなのですから、この慈善の業においても豊かな者となりなさい」と記している。豊かなコリント教会は慈善においても豊かになりなさいと勧め、アカイア州もマケドニア州の諸教会に負けぬように熱心に献金するように訴えている。パウロは遠回りして、異邦人教会からの献金を受け取り、それをエルサレム教会に届けたいと考えていた。それから、都ローマを見たいと書いている。パウロは主イエスの福音をしっかりと捉え、その福音を言葉と文字において力強く、豊かに表わした。そして、「貧しい人たちのことを忘れない」という福音的愛を実践した。抽象的、机上の人ではなく、福音を具体的に生きる伝道者であった。

その支援活動のために、パウロは弟子の中からテモテとエラストの二人をマケドニア州に送り出した。テモテについては、コリント書（一）4 章 17 節で「テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう」と書いている。エラストはエフェソ市の経理係であった。パウロは二人を先にマケドニア州に送り、献金行脚をさせている。パウロ自身はアジア州のエフェソに留まり、宣教活動を続けたのである。